

国立研究開発法人国立がん研究センター理事会（平成30年度第5回）議事録

日 時：平成30年8月31日（金）10：00～11：30

場 所：国立がん研究センター 管理棟 第1会議室

出席者：中釜斉理事長、南砂理事、児玉安司理事、松本洋一郎理事、間野博行理事、北川雄光理事、小野高史監事、増田正志監事

欠席者：なし

I. 前回（平成30年度第4回）議事録の確認

- ・前回議事録について了承。
- ・議事録署名人を北川理事と増田監事に依頼。

II. 審議事項

○ 6か年方針の改定等の進め方

【主な意見等】

- ・建物整備の構想について、病院の特徴として電気系統などは1秒も止まれない制約があるため、新しい病院を作る際は基幹部分を2つ作ることになるので、仮設費用も考えるべきではないか。C-CATは今までに無い機能を持った新しい事業なので、人員補強が大変ではないか。
- ・C-CATについては、補強を既に始めており来年度の人員は整いつつある。再来年度について、どのような人材がどのくらい必要か検討している。
- ・C-CATについては、保険診療になったあと加速していくために来年度も体制を整備していく必要がある。
- ・長期計画では周辺環境の変化が突然加速する時期がある。医療についてもA I等で既に革新的な動きが出始めており、6か年計画の遂行中に、そういう状況になる可能性は高く、余力を持っておくことも重要。センターとしてがん医療の運命を決めるという覚悟で臨まなくてはいけない。
- ・来るであろう急激な動きが来たときに破綻してしまわないように、6か年方針の審議でも、その先の姿も意識しながら慎重に見据えていきたい。
- ・財務キャッシュフローシミュレーションで、電子カルテ更新の記載があるが、情報システム全体の計画はどうなっているのか。
- ・情報システム全体については、ランドデザインとして検討中であるが、システムと医療機器の投資に分けるため精査している状況。
- ・財務キャッシュフローシミュレーションの6か年計画部分には、何か前提があると思うが、どのようなものか、また、C-CATの影響はどちらにカウントしているか。

- ・現状のBCGと作成した現案では、今後の投資予定を踏まえ6年で25億円程度の収支の改善を要することを前提とする一方で、医業収益は35年度以降が見渡せない
ので据え置きとし、費用は人件費について人事院勧告の増を盛り込むことで、厳しめ
に計画している。C-CATは、医療収益から出すのではなく、国からの補助金等を受
けて運営する予定のため、キャッシュフローのシミュレーションとしてはニュー
トラルであるべきものであり、今後も国の支援があるものとしてキャッシュフロー
には盛り込んでいない。
- ・財務キャッシュフローシミュレーションについては、現状の好調な状況からみると、
収益が横這になっており手堅く作られていることと、C-CATについては損失が
発生しない見込みであると理解した。
- ・東病院の建替のために平成42年度まで俯瞰することは大事。しかしながら、投資計
画におけるブレを大きくするリスクとして収支計算における合成の誤謬があるので、
全ての積算を収支に入れ込んで平成42年まで出すと外れるリスクが高くなる。例え
ば、平成35年度くらいまで計算し、平年度収支というものを置いて、その時点にお
けるベース、実力収支として、それにC-CATや建替等の個別プロジェクトの収支
を算出して、加算し、予算内に収まるか平年度収支でカバーできるのか検証するとい
う方法も検討してはどうか。
- ・将来の見込み難い収支について、ある時期以降は平年度収支にするというご指摘だと
思うが、ご指摘も踏まえて検討したい。
- ・財務キャッシュフローシミュレーションについては、更新してみると下方乖離するこ
とがあるので、毎年更新して計画を見直していくべき。仮設病棟を建設すると十数億
円かかる、最初から壊す前提でも医療に支障がない建物を作らなくてはならないの
で非常に金額がかかるため、それも考慮に入れておくべきではないか。
- ・今回のキャッシュフローは29年度決算の確定前に作っているのだから、その点でも、も
う一度全体の精査が必要と考えている。病棟については仮設の建設コストが発生し
ないよう、現在のマスタープランでは空いている敷地に新病棟を建てる構想をして
いる。
- ・キャッシュフローシミュレーションでは、借入残高が最後は事業規模の半分になって
いるがどう考えればいいのか。
- ・借入金残高が膨らむのは財投の借入れであり、財投については償還期間が5年据え
置きで20年となっており、それを毎年返済していけるキャッシュフローの余裕が
あるかどうか検証していく。
- ・個々の正しさと、全体としての正しさを見ながら、結果が出てきたときの違和感も見
るべき、結果をフィードバックして精緻化していくことが大事。
- ・今日いただいた意見を踏まえながら、6か年方針の改定を11月メドで進めていき
たい。履歴を残しつつ随時更新し、センターとして大きなチャレンジになるものは財政

面も検証しながら進めていきたい。

Ⅲ. 報告事項

1. 日本希少がん患者会ネットワークと MASTER KEY プロジェクトでの連携協定締結資料に沿って報告された。

【主な意見等】

- ・企業はどのような形で参加しているのか。
- ・企業主導治験の実施に取り組んでいる。

2. アメリカ出張報告 (NCI、MSKCC、NYGC)

資料に沿って報告された。

【主な意見等】

- ・MOUの締結について、知的財産権の情報共有に関する規定にバラつきがあるので、A I ・データ契約については経産省からガイドラインが出ているものを念のため確認してみてはどうか。
- ・現在、MOUは協力体制を作るための入口段階で、具体的に進めていくために訪問した。今後、国際的な共同研究のテーマを具体化する際には十分配慮しながら進めていきたい。

3. 平成 31 年度政府予算概算要求

資料に沿って報告された。

【主な意見等】

- ・希少がん中央機関機能強化事業については、31 年度はこの予算で実施する。規模が拡大した際は予算拡充を考えていきたい。
- ・次世代シーケンスパネル検査開発を柱とした小児固形腫瘍のゲノム医療促進のための基盤構築については、31 年度はこの予算で実施する。成育医療研究センター、J C C G、日本血液小児がん学会等からのワーキングチームのメンバーで統一のパネルを作り、日本の小児がん治療・臨床研究に関するオールジャパンの体制を作することを目的としているので、今後、そのための予算拡充を考えていきたい。

4. 政府の会議の状況等

資料に沿って報告された。

5. 広報実績

資料に沿って報告された。

6. 投資委員会報告

資料に沿って報告された。

7. 7月分月次決算等

資料に沿って報告された。

【主な意見等】

- ・在院日数や稼働率がかなり上回っているが、病院での対応は、入退院の管理など問題はないか。
- ・在院日数が短くなると、回転が上がり病棟関係の負荷が高くなるので人員の必要性が増す、地域連携や支援も関係してくるので、将来的には入退院を管理するセンターを作り入院・外来患者を統一的に管理するシステムを作ったほうが良いのではないか。
- ・医業件数を見ると非常に堅調に感じたが、予実管理表の医業収益95%はどう解釈すれば良いか。
- ・医業収益は昨年度の実績を上回っているが、予算設定を相当高くしているため予算目標に対する実績としては95%となっている。
- ・今後とも、予算と実績を比較しながら見ていきたい。